

# 平成30年度 宮城県社会福祉協議会事業報告

## 『経営理念』

宮城県社会福祉協議会は、本県における地域福祉推進の中核機関として市町村社会福祉協議会をはじめ、福祉諸団体、NPO法人、ボランティア等幅広い関係者との連携・協働のもと、高い公益性とともに民間法人としての自主性、創造性を発揮して『誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり』に取り組み、豊かな福祉社会の実現を目指します。

また、東日本大震災からの早期復興に向けて、継続的に支援を行います。

## 『経営方針』

- 1 被災地域の復興に向けた市町村協等と連携・協働による継続支援
- 2 地域住民が支え合う“まちづくり”の推進
- 3 地域における福祉サービスの担い手の支援
- 4 質の高い福祉サービスを支える体制の構築
- 5 各種団体とのネットワークの強化
- 6 より信頼される法人を目指した運営基盤の強化

## 『平成30年度事業の基本的な考え方』

近年、少子高齢化や人口減少の進展、住民同士の連帯感の低下や家族間の繋がりの希薄化、経済困窮等の課題など、複雑で多様な課題を抱える人々が増加し、縦割り・個別対応のみでは解決困難な事例が多く、包括的な支援体制が必要となっています。

このような現状を踏まえ、団塊の世代が75歳以上となる平成37年（2025年）を目途に、重度な要介護状態になっても、できるだけ住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが進められています。

また、国では、ニッポン一億総活躍プランにおいて「地域共生社会」の実現を図るため、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを推進するとともに、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」、「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりが、生きがいをもって安心して暮らすことができる、地域をともに創っていく仕組み創りを進めています。

東日本大震災（以下「大震災」という。）から7年が経過しましたが、現在においても7,872人（平成30年1月31日現在）の方々が応急仮設住宅等で生活しています。災害公営住宅移行後の新たなコミュニティ構築や個別の生活課題に即した支援等、各ステージに応じた支援について被災地域の市町村協との連携により引き続き行う必要があります。

宮城県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）では、これらの社会動向と平成30年策定の県社協第二期地域福祉推進計画（以下「地域福祉推進計画」という。）を基本に、市町村社会福祉協議会（以下「市町村社協」という。）をはじめ、福祉諸団体との一層の連携を図り、地域福祉の向上に努めます。

そうした中で、県社協の経営基盤の主要財源である国・県等の補助金・委託金が毎年減少傾向にあることから、限られた財源の効率的配分と自主事業等の充実を図るなど運営基盤の強化を図ります。また、宮城県の指定管理者として受託している社会福祉施設をはじめ、設置施設・事業所等の適正な運営に努めます。

以上により、県社協の理念・使命を果たすため、次の事務事業に取り組みます。

- 『注：平成31年3月31日現在、災害公営住宅は全戸完成、仮設住宅等での長期生活者は656人となっている。』

## 事業報告の概要（主な事務事業）

平成30年度は、前記の経営理念・方針等に基づき、次の事務事業に取り組みました。

### 1 大震災における被災地域の市町村協の支援をとおして、地域福祉推進の観点から被災住民等の自立・生活再建に努めます。〔推進計画…基本目標1－(3)〕

20,326,953円

#### (1) 被災地域市町村協への支援

被災地域市町村協が多様な課題を抱える被災者への支援と併せ、住民主体の地域づくりに取り組めるよう、生活支援相談員、生活援助員（LSA）等を対象とした研修会の開催などにより支援を行いました。

また、支援関係機関合同会議（震災復興定例支援会議、広域支援団体連携担当者会議等）を開催し、復興に関する課題等を共有して福祉活動を促進しました。

#### (2) 地域コミュニティ構築支援

仮設から災害公営住宅への移行に伴う被災者及び地域住民の新しいコミュニティ構築・再生に向けて、「復興支援・福祉アドバイザー」を継続して派遣するなど被災地域市町村協が行う要支援者の見守り活動や助け合い活動の仕組みづくりなどの支援に取り組みました。

### 2 住民主体の“地域づくり”を進める市町村社協・NPO法人等との連携・協働を図り、地域福祉活動を推進します。〔推進計画…基本目標1－(1)(2)(4)〕

80,504,396円

#### (1) 地域福祉活動の推進

地域福祉の活動をボランティアや住民組織等と協働で、効果的・効率的に実践するために「地域福祉活動計画」を策定する市町村協へ職員を策定委員として派遣するなどの支援を行いました。

地域福祉推進のため、市町村社協をはじめ宮城県民生委員児童委員協議会、各種別協議会・NPO等の関係福祉団体と連携し情報交換会議等を開催の上、新たな生活課題等の把握に努めました。

介護予防・日常生活支援総合事業等の円滑な実施に向けた市町村支援のプラットフォームとして、宮城県が設置する「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議」の事務局運營業務を通じて、市町村・市町村社協による地域住民を巻き込んだ地域づくりが活性化するよう、アドバイザーの派遣等により支援を行いました。

(2) 市町村社協の運営充実と社協間のネットワーク構築への支援

本会地域福祉推進計画に基づき、市町村社協地域福祉担当者会議や基礎研修会を開催し市町村社協職員のスキルアップを図るとともに、市町村社協会長・事務局長会議等を開催し、ネットワーク構築等の支援を行いました。

(3) コミュニティソーシャルワークの視点をもった人材の育成

地域住民による福祉活動組織と関係機関や地域資源をつなぎ、コーディネーターするための人材を育成するため、CSW実践研修の開催や東北学院大学CSWスキルアッププログラムへの講師派遣を行うなど社協及び地域福祉関係職員の資質の向上に取り組みました。

(4) 地域活動の推進に係る情報の発信

地域福祉の推進に向けた情報の発信として、宮城県社会福祉大会、各種研修会等を開催するとともに、広報誌「福祉みやぎ」の発刊、ホームページ等により幅広く情報発信し普及啓発に努めました。

**3 多様なボランティア・市民活動が地域でいきいきと展開できるよう支援します。**

〔推進計画…基本目標2－(1)(2)(3)〕

103,708,263円
--------------

(1) 多様なボランティア活動や市民活動に対する支援の強化

社協ボランティアセンター（以下「社協VC」という。）機能の充実に向け市町村社協を対象に担当者情報共有会議の開催や市町村社協VC運営に関する現地相談などの支援を行いました。

また、大規模災害等に備え、災害VC運営スタッフ体験研修や設置・運営責任者研修等により人材育成に努め、その体制整備を推進しました。

(2) 地域活動を推進・支援する人材の育成

地域での福祉活動実践者、ボランティアコーディネーター等の育成研修やスキルアップ研修等を実施するとともにボランティア団体・中間支援組織等との連絡会を開催するなど、住民主体の地域活動を推進できる人材の育成に努めました。

高齢者を対象とした宮城いきいき学園5校において、地域貢献活動に関連するカリキュラムを編成し人材の育成に努めました。また学園生の卒業時に“生きがい健康づくり推進協力員”を委嘱し、卒業後の地域貢献活動への参画を支援しました。

(3) 小地域福祉活動の充実

市町村社協と協働し、地域の特性に応じた福祉活動が行えるようボランティア団体や地域福祉活動実践者を対象として、福祉教育・防災教育を切り口とした福祉教育学習会等を開催し小地域福祉活動の活性化を図りました。

(4) 元気高齢者への社会参加の支援

高齢者のスポーツや文化活動をとおして生きがいや健康づくりを促進するため、高齢者のスポーツ・文化の祭典である第31回全国健康福祉祭とやま大会（ねんりんピック富山2018）へ選手を派遣（18種目141人）するとともに、宮城シニア美術展を宮城県美術館県民ギャラリーで開催しました。

**4 質の高い福祉サービスを支える専門性を備えた人材育成・確保を図ります。**

〔推進計画…基本目標3－(1)(2)(3)〕

509,799,746円
--------------

(1) 福祉人材の専門性を高める研修や資格取得のための研修の企画及び実施

福祉・介護人材の専門性を高めるため介護支援専門員研修，社会福祉従事者研修，資格取得研修等を実施し，福祉・介護職員のスキルアップに努め福祉施設及び事業所等が提供する福祉サービスの向上を図りました。

また，障害者の就労支援として，知的障害者居宅介護職員初任者研修を実施しました。

(2) 幅広い人材確保の企画及び実施

宮城県福祉人材センターにおける福祉人材職業無料紹介事業による福祉の職業紹介と就労斡旋をはじめ，公共職業安定所や教育機関等と連携した福祉の仕事就職面談会の開催，中高年齢者に対する初任者向け研修や再就職希望者に対する研修等を実施しました。

また，介護福祉士等修学資金貸付や保育士修学資金貸付，保育士再就職支援貸付，児童養護施設退所者等に対する自立支援資金貸付，ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付の各事業の推進により人材の確保と定着に努めました。

(3) 福祉事業者への経営支援の実施

社会福祉法人等が抱える現状の問題・課題に対応するため弁護士，公認会計士，社会保険労務士等の専門員相談による社会福祉経営相談を実施するなど，健全な経営基盤を確立できるよう支援を行いました。

また，福祉サービス第三者評価事業機関として，保育所及び認定こども園の評価を行い，サービスの質の向上を促進しました。

## 5 県民の福祉ニーズに即したサービスを提供し、住民やサービス利用者が安心して暮らせる地域づくりを推進します。

[推進計画…基本目標 4－(1)(2)(3)(4)]

334, 815, 567円

### (1) 県社協が運営する施設及び事業所の適正な運営

トップマネジメントをはじめ、県社協の各地域福祉サービスセンターにおける事業評価及びP D C Aサイクルを活用した事業進行管理を行いました。

また、サービスの質の向上を図るため、本会が運営する各施設、事業所においてサービス評価（自己評価）を行うとともに、危機管理の対応及び災害・防犯対策については、各種研修の実施等により強化に努めました。

### (2) 福祉サービス利用の専門相談の充実

総合相談センターでは高齢者及びその家族が抱える法律・医療・保健福祉の専門的相談に迅速に対応するとともに、市町村等の相談機関と連携・協力し、地域住民の生活課題をテーマとした相談関係機関の連絡会議や市町村社協生活相談員の情報交換会を実施するなど高齢者及びその家族等県民の福祉向上と増進を図りました。

社会福祉法人等へ専門的な助言及び研修の実施により、健全な施設経営や福祉人材の確保・育成の支援を行い、福祉サービスの質の向上を図りました。

### (3) 権利擁護の推進

日常生活自立支援事業（まもり一歩事業）をとおして認知症高齢者や障害者等で判断能力が不十分な方に対し、そのニーズに即した福祉サービス利用援助や日常的金銭管理援助等を行い、地域で安心して暮らせるよう自立支援を行いました。

また、高齢者の一人暮らしの増加、障害者の自立と社会参加などの福祉ニーズの高まりの中、専門員や生活相談員のスキルアップを図るため、外部研修への参加や事例検討会を実施しました。

運営適正化委員会では、福祉サービスを利用する方々からの相談や苦情の解決に努めるとともに、事業所等を対象に研修会の開催、苦情解決制度の周知を図るため、広報・啓発活動を推進しました。

### (4) セーフティネット機能の充実・強化

経済的困窮者や低所得世帯に対しては、市町村社協や民生委員・児童委員による相談支援を基盤とした生活実態の把握により、その世帯に即した生活福祉資金の貸付けを行い自立を支援するとともに、関係機関と連携のうえ償還計画に基づく適正な債権管理に努めました。

中国帰国者支援・交流センターの運営（日本語学習支援・生活相談・就労支援・地域支援交流等）をとおして中国帰国者が地域で安心して暮らすことができるよう自立支援を行いました。

高齢者や障害者等で在宅生活が困難な方々に対し、県社協が運営する社会福祉施設やグループホーム等で生活（自立）支援を行いました。

## 6 各種団体及び社会福祉法人が実施する福祉活動を支援・協働します。

〔推進計画…基本目標5－(1)〕

2, 329, 443円

### (1) 各種団体との連携・協働

種別を超えた懇談会の開催、各種団体への定期訪問や研修・セミナー等を実施するとともに種別協議会等の共通課題や要望、提言等を取りまとめて9月に宮城県へ提出し、その回答については種別協議会等に報告しました。

また、関係団体からの派遣要請に応じ、継続して職員1人を派遣しました。

### (2) 災害福祉広域支援ネットワークの構築

災害時における要援護者への支援や避難環境の改善を図るため、福祉関係者と自治体の連携による「宮城県災害福祉広域支援ネットワーク協議会」の事務局運營業務を通して、ネットワーク体制の充実に努めるとともに、災害派遣福祉専門職によるチームを組織するため、チーム員養成研修を実施しました。

## 7 より信頼される法人を目指し、運営基盤の強化を図ります。

〔推進計画…基本目標6－(1)〕

3, 800, 698, 354円

### (1) 運営基盤の強化

コンプライアンス（法令遵守）を基本に事務事業の進捗状況を把握し、計画的な予算の執行、基金の運用、資金の確保など財務管理と不祥事防止など運営上のリスク管理の徹底を図り、健全な法人運営に努めました。

また、限られた補助金、委託費等の効率的な執行や基金の的確な運用を図り運営基盤の強化に努めました。

### (2) 職員一人一人のスキルアップと研修体制の強化

県社協職員研修規程に基づき、人材育成研修システムの実践により職員一人一人のスキルアップに努めました。また、組織全体として専門職員研修や職員自主企画事業の推進等により、専門性の高い福祉人材の育成に努めました。

### (3) 社会福祉施設等の適正な運営

指定管理施設及び設置施設・事業所等の運営にあたっては、高齢者や障害児（者）等に施設入所支援をするとともに、生活介護・通所介護・相談事業等の福祉サービスを提供し、地域で自立した生活が送れるよう適正な運営に努めました。

また、利用者の状況に応じた施設整備、改修等を適宜行うとともに、障害者の高齢・重度化に対応したグループホーム2棟を新築し、利用者の安心・安全な生活の確保に努めました。

近年頻繁に発生している水害・土砂災害等の自然災害への備えに関し、防災強化を図るとともに、防犯対策について研修の実施等により強化に努めました。

なお、宮城県船形コロニー・和風園における喀痰吸引等の医療的行為を円滑、

適切に実施するため、外部研修により有資格者の増員を図るとともに、自施設による研修を推進するため登録喀痰吸引等研修実施機関として宮城県船形コロニーの登録を行いました。

## **8 平成30年7月豪雨災害、北海道胆振東部地震等への災害支援対応**

平成30年7月豪雨災害において岡山県、広島県、愛媛県等の計8府県社協へ、北海道胆振東部地震においては北海道社協へ災害支援金を送金しました。

また、同豪雨災害においてはボランティアセンター運営支援、緊急小口資金特例貸付への支援のため広島県、岡山県、愛媛県へ職員を派遣するとともに、県内市町村社協職員の派遣に係わる調整等を行いました。